

文部科学省  
平成21年度「大学教育・学生支援推進事業」(就職支援推進プログラム)

## 「長期就業を目指した地元企業への就職支援」 東北学院大学 就職部

報告：横田尚昌＝松坂暢浩  
(就職部副部長) (コーディネーター)

東北学院大学は、現在  
土樋キャンパス(仙台市青葉区)に、  
文学部、経済学部、経営学部及び法学部を、  
多賀城キャンパス(多賀城市)に、工学部を、  
泉キャンパス(仙台市泉区)に、教養学部を置く総合大学であり、  
これら6学部で、計12,287名(平成22年5月1日現在)の学部  
学生が学んでおります。



## 東北学院の建学の精神

宗教改革の「福音主義キリスト教」の精神に基づく  
「個人の尊厳の重視と人格の完成」の教育をなすこと

||

聖書に示す神に対する畏敬の念と主イエス・キリスト  
にならう隣人への愛の精神を培って、文化の進展と  
福祉に貢献する人材の育成を目指すものであり、  
大学においては、学生一人ひとりが持つ潜在的な能力  
の開花を願って教育を行っており、これまで概ね順調  
な発展を遂げてきた。



## 東北学院大学学部学生をとりまく就職環境

ところが――

―昨年秋以来の世界的景気減退の影響を受けて、  
新卒者の就職環境は極めて厳しい状況におかれる。

||

文部科学省 平成21年度「大学教育・学生支援推進  
事業」(就職支援推進プログラム)の補助事業  
に基づく取組(以下、「本取組」という)を実施する。

(取組名称)

「長期就業を目指した地元企業への就職支援」



## 本取組の概要

- |       |   |
|-------|---|
| 個別的対応 | <ul style="list-style-type: none"><li>・就職相談</li><li>・メール配信(既卒者向け)</li><li>・各種講座</li><li>・内定者向けの社会人マナー講座及びメンタルトレーニング</li></ul> |
| 集団的対応 | <ul style="list-style-type: none"><li>・外部講師による就職ガイダンス</li><li>・学内合同企業説明会</li></ul>  |



## 趣旨・目的

### ※ 問題の所在

- 就職希望学生の傾向 = 大企業（首都圏）志向
- 就職活動 = 熟慮せず多数の企業回り
- 夏休み過ぎても未内定 = 手当たりしだいに企業訪問
- 不採用につき総括せず = 自ら内定獲得を遠ざけている
- どこでもいいから内定を = 適性なく早期離職の危険

⇒ 一概に学生個人の責めに帰することはできない



## 趣旨・目的

### ※ 東北学院大学と地元企業

- 仙台圏の地元企業 = 本学卒業生が数多く活躍する
- 卒業生の連帯 = 地元経済界への貢献
- 就職難の克服 = 本学と地元企業の繋がりの継続

⇒ ただし、地元企業は知名度が低く賃金は安く  
安定性もないように見えるかもしれない

→ しかし、本当にそう捉えるべきなのか



## 趣旨・目的

### ※ 真の充実した職業生活とは何か

地元の中小企業の幾社か→堅実で誠実な経営

→従業員は単なる歯車ではない

→仕事全体を任せられる

首都圏の大企業

→安定しているのは会社自体

→雇用の安定とやりがいとは別

⇒ 各人の希望と適性に応じた地元企業への就職



## 達成目標

- ① 地元企業へ就職すること(注1)の優位性を知る。
- ② 第二新卒を含めた就職希望者が的確な情報提供と指導を受けられる。
- ③ 自己分析(注2)を深めて自己の適性に合った職探しを安心して行える。
- ④ 主体的な就職活動ができるようになる。



## (注1) 就職か就社か

- ・就職であって就社ではないと考える

法人名義の企業取引＝組織的活動である

組織の論理とどう向き合っていくかが課題(新入社員にとって)

→ 何が大切かを見極める力が必要となる

＝ 何故この職を選んだのかという観点から自問自答すべき

→ 何故この会社を選んだのかと考えれば袋小路に入る



## (注2) 自己分析の必要性

- ・大学生に自己分析は困難である = 確かにそのとおり

→ だからこそ自己分析をできるように目指す必要がある

∵ 自分を知らなければ相手を知ることもできない

＝ コミュニケーション力の増進は自己分析から

⇒ そのお手伝いを我々がする。



## 本取組の実施体制

※ 就職相談員（コーディネーター）＝ 松坂暢浩（まつざか・のぶひろ）

- ・ 学生の就職相談・指導
- ・ （本取組）ガイダンス／セミナー開催のための連絡・調整
- ・ 携帯メール情報に載せる就職ワンポイントアドバイスの執筆

※ 就職部 就職課

- ・ 本取組の効率的な実施のために、様々な工夫を施す。



## 本取組の内容

- 個別的対応
- ① 学生に対する就職指導・相談
  - ② メール配信事業（既卒者向け）
  - ③ 就職相談員（コーディネーター）による講座
  - ④ エントリーシート添削講座、模擬面接講座
  - ⑤ 内定者向けの社会人マナー講座及びメンタルトレーニング
- 集団的対応
- ⑥ 中小企業家同友会及び商工会議所派遣講師による就職ガイダンス
  - ⑦ 県、労働局、ハローワーク等派遣講師による就職ガイダンス
  - ⑧ 本学卒業生会社経営者団体（地塩会）派遣講師による就職ガイダンス
  - ⑨ 学内企業説明会



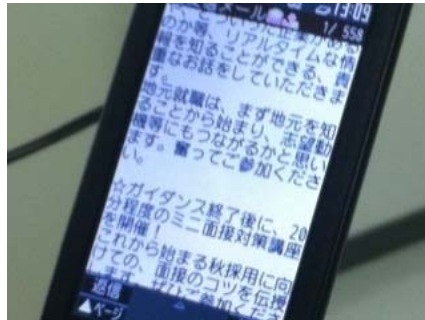


## ② メール配信事業

※ 既卒者（主に平成22年春卒業未内定者）を対象とした就職支援の強化を目的として実施する。

- ・毎週一回以上の 求人情報や 合同企業説明会の案内
- ・就職相談員(コーディネーター)による  
就職ワンポイントアドバイス  
などを掲載

⇒ 就職活動に後ろ向きと  
なりがちな未就職卒業生の  
励みになることを期す。



## ⑦ 本学卒業生 会社経営者団体（地塩会）派遣講師による 就職ガイダンス

- ・ 本学卒業生会社経営者のモデルケースに触れることにより——  
→ 就業意識の改善を促す  
→ 卒業生のいる地元企業へ目を向けさせる
- ・ 同じ学び舎で学んだOBだからこそ伝えられることを語っていただく(=本学学生に対する厳しい指摘を含めた期待を)。
- ・ 後輩に対して社会で求められる人物像について経営者の視点からお話し頂く。



## 本事業の概念図

### 文科省大学就職支援プログラム「長期雇用を目指した地元就職支援」について



## 今後の課題

- ・ 授業や演習時間と重なるためガイダンス等に出席できない  
→ 大学設置基準の改正 = (全学) キャリア教育科目の導入  
→ これに本取組内容を有機的に組み入れて対処する
- ・ 心の基礎体力の低下を防止する手立てを考える。  
与えられて当然と思わないよう感謝の心を忘れないようにさせる。  
そして、大学生活の充実が一番の対策になる点を理解させる。

就職支援を通した総合的な人材教育を目指す。

